



～お知らせ～

日に日に春めいたきたこのごろ、年度末の仕事でご苦労をおかけしています。令和2年度の受託業務も順調に納品が進み安堵しているところです。これも、社員の皆様方の頑張りの賜と感謝しています。令和2年度は、コロナ禍で社会の在り方が一変してしまいました。幸いにも土木業界は大きな影響もなく例年並みの業務量が確保されホッとしているところです。しかし、飲食業や観光業は、大きな影響がでています。頼みのGO-TOキャンペーンも緊急事態宣言で中断され、また、個人での飲食や旅行もリスクが大きく少人数かつ小規模なもので我慢せざるを得ない状況が今しばらく続くのではと思います。感染対策につきましては、更なる徹底をよろしくをお願いします。



先週の日曜日に1年ぶりで新潟市内のマラソン大会に参加してきました。5千人規模の大会ですが午前の部と午後の部に分けて2千人、残りの3千にはウェブでの参加。1週間前からネットで体調と体温の送信が義務づけられ受付でチェック。レース後の1週間も送信が求められます。面倒ですが、必要な対応と思います。

新潟市が廃止した市役所白山浦庁舎（旧整備局庁舎）を条件付けで売却することを発表されました。入札参加条件は、食料品スーパーと住宅の整備など。閑散としていた地域が明るくなりますね。旧庁舎には、いろいろな思い出があるので、ちょっと寂しいけど！

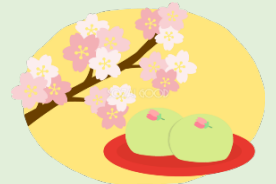
「小春日和」ってご存じですか？何かこの時期に使いそうですよね。でも、「小春日和」は、晩秋から初冬の頃の穏やかで暖かな天気のことだそうです。「春」という言葉が使われていますが、春の天候ではありません。「小春日和」の意味を辞書で調べてみたら、「明鏡国語辞典」（大修館書店）こはる-びより【小春《日和》】初冬のころの暖かくて穏やかな天気。「三省堂国語辞書」（三省堂）こはるびより【小春日和】十一月から十二月にかけてのよきはれた春のような感じがする、あたたかいひより。「一のおだやかな日」と書かれています。続いて、実際の用例を文学作品から見ると「冬はすぐ其処（そこ）まで来ているのだけれど、まだそれを気づかせないような温かな小春日和が何日か続いていた。」堀辰雄「菜穂子」、「秋から冬に成る頃の小春日和は、この地方での最も忘れ難い、最も心地の好い時の一つである。」島崎藤村「千曲川のスケッチ」などなど。参考にしてください。

「3つの密を避けましょう！」 ①密室空間 ②密集場所 ③密接場面



「ウィークリースタンスの徹底を」 お願いします。

- ① 昼休みや16時以降開始の打合せは行わない
- ② 休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない
- ③ 休前日（金曜日）は新たな依頼をしない
- ④ ノー残業デー（水曜日）は勤務時間外の依頼はしない



[○ホームページに追加事項があれば教えて下さい！](#)

www.hokurikuyouchi.co.jp

○お願い！ 「Aipo」を活用してください。